

# 伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第十四主日礼拝のしおり

## 2022年9月11日

### 前奏

#### 招きのことば：詩編51編3-4,9-11節

神よ、わたしを憐れんでください 御慈しみをもって。  
深い御憐れみをもって 背きの罪をぬぐってください。  
わたしの咎をことごとく洗い 罪から清めてください・・・  
ヒソブの枝でわたしの罪を払ってください わたしが清くなるように。  
わたしを洗ってください 雪よりも白くなるように。  
喜び祝う声を聞かせてください あなたによって砕かれたこの骨が喜び躍るように。  
わたしの罪に御顔を向けず 咎をことごとくぬぐってください。

#### 罪の悔い改めと赦しのことば

**会衆：** 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。  
私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

**牧師：** 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

#### 使徒信条

**われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。**

**われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。**

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、  
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。  
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。**

## 祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

私たちは知らず知らずに神様から離れて、道に迷ってしまいます。調子のよいときにはあまり気づくことも少ないですが、物事が思い通りにいかず、人々の温かさに裏切られ、自分の無力さに気づいたときには途方にくれてしまいます。私たちはまた、大切な人がそのように苦しんでいるのを見ても、どのように助け支えていけばよいか、そのすべがわからず、心に届くことばも見つけることさえ難しく困ってしまいます。けれども、イエス様は羊飼いのように、迷い出た私たちを探しに出て来てくださいます。見つけ出して肩に乗せて喜んで家路を急ぎ、安心できる交わりに導いてくださいます。私たちを今週も赦し、支え、導いてくださり、隣人の助けとなり、心通わせる意義深い一週間としてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

## 使徒書朗読：1テモテ1章12-17節

わたしを強くしてくださった、わたしたちの主キリスト・イエスに感謝しています。この方が、わたしを忠実な者に見なして務めに就かせてくださったからです。以前、わたしは神を冒瀆する者、迫害する者、暴力を振るう者でした。しかし、信じていないとき知らずに行ったことなので、憐れみを受けました。そして、わたしたちの主の恵みが、キリスト・イエスによる信仰と愛と共に、あふれるほど与えられました。「キリスト・イエスは、罪人を救うために世に来られた」という言葉は真実であり、そのまま受け入れるに値します。わたしは、その罪人の中で最たる者です。しかし、わたしが憐れみを受けたのは、キリスト・イエスがまずそのわたしに限りない忍耐をお示しになり、わたしがこの方を信じて永遠の命を得ようとしている人々の手本となるためでした。永遠の王、不滅で目に見えない唯一の神に、誉れと栄光が世々限りなくありますように、アーメン。

## 福音書朗読：ルカによる福音書15章1-10節

徴税人や罪人が皆、話を聞こうとしてイエスに近寄って来た。すると、ファリサイ派の人々や律法学者たちは、「この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」と不平を言いだした。そこで、イエスは次のたとえを話された。「あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つけて出すまで捜し回らないだろうか。そして、見つけたら、喜んでその羊を担いで、家に帰り、友達や近所の人々を呼び集めて、『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください』と言うであろう。言うて

おくが、このように、悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある。」

「あるいは、ドラクメ銀貨を十枚持っている女がいて、その一枚を無くしたとすれば、ともし火をつけ、家を掃き、見つけるまで念を入れて捜さないだろうか。そして、見つけたら、友達や近所の女たちを呼び集めて、『無くした銀貨を見つけましたから、一緒に喜んでください』と言うであろう。言うておくが、このように、一人の罪人が悔い改めれば、神の天使たちの間に喜びがある。」

### 讚美歌 508 番

- 1 主よ、日に日に 増したまえ、罪を悔ゆる まごころを  
きよめられる 身の幸を 仕えまつる 喜びを
- 2 主よ、日に日に なしたまえ、試みには 勝つ者と  
みこころをば 知る者と み言葉にぞ 立つ者と
- 3 主よ、日に日に 見せたまえ のりとすべき 御姿を  
天つ家に 行く道を とこしなえの 御栄えを アーメン

### 説教：「見失った羊を見つけた」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様はさげすまれ、見捨てられた人々のところに来てくださり、親しく心を開いて彼らの罪を赦し、新しいいのちを与えてくださいます。そしてまた、そのような人々をさげすんでいた民の指導者たちにも、悔い改めて罪の赦しを得るように願ってくださいます。

今日開かれた聖書の箇所は有名な一匹の羊のたとえ話から始まります。百匹の羊を飼う羊飼いがそのうち一匹足りないことに気づいたら、九十九匹を安全なところにおいて、いなくなった一匹を見つかるまで探すでしょう、というたとえです。また、ある女性が大切な銀貨を十枚持っていましたが一枚をなくしてしまったたとえが続きます。当時女性が銀貨十枚持っていた、というと、結婚のお祝いとしていただいて紐でつないで首飾りにしていた大切なセットの銀貨でした。家は暑さのため窓が小さく、床に藁が敷いてあることもありました。イエス様はこの女性が昼間から高価な油をつかってともし火をつけて部屋の隅々まで照らし、見つかるまで探す姿をお話になっています。

なぜこんなお話をイエス様がなさったかという、ファリサイ派と呼ばれる人びとや律法学者という人びとからイエス様がとがめられたからでした。彼らはイエス様が、当時罪びとと呼ばれていた人を受け入れて、一緒に食事までしていたことを批判したのです。イエス様は徴税人

や罪びとと呼ばれている人がお話を聴くために近寄ってきたので、受け入れて一緒に食事をしました。当時は親しい仲間としか食事をしませんでした。ファリサイ派の人や律法学者は、民の教師であるイエス様が、罪びとと一緒にになって食事などをするのはいけないうことだ、と批判しました。神様のおきてに逆らう人びとと一緒にご飯をたべるような親しさを見せたら、社会の秩序が乱れてしまう、これまでそんなことをした人はいない、ということです。

当時の社会で罪びとと呼ばれる代表は、徴税人と遊女でした。徴税人は支配者ローマ帝国の下請けとなって民衆から間接税を集める役人です。徴税人はローマ帝国の強大な権力に恐れをなす苦しい民から容赦なく税金を取りたてました。それで卑しい仕事と見られました。それだけではなくローマの権威を傘に着て、逆らえない人びとから決められた以上にお金を取り立てては私腹を肥やしてお金持ちになるという、イスラエルの民にとっては悪質な裏切り者でした。

また、遊女と言う人びともいました。家庭を持たないで遊びのお付き合いから収入を得て暮らしていて、汚れた罪びとと呼ばれていました。家庭を大切にしようという、ファリサイ派の人や律法学者が教えている神様のおきてを守れなかったからです。ファリサイ派の人や律法学者は人々に、このような罪びとにならないように、と教え、このような人びとは付き合わないように、と教えました。また、自分たちはこの人たちのような罪びとではない、と高慢でした。ですから、イエス様がそのような汚れた方々を受け入れることは信念に逆らうことです。民にもよくないことです。それでイエス様に不平を言ったのです。

このような罪びとが救い主イエス様のところに来ました。これまでの罪を悔い改めて、イエス様と共に食事をしました。ルカによる福音書5章27節では、徴税人のレビという人がイエス様に呼ばれて持ち物を何もかも捨てて従っていったことが記録されています。徴税人のレビは、イエス様の弟子になったのです。レビはそのあまりの喜びのため自宅にイエス様を迎え大きなパーティーを催しました。感謝と共に自分と同じような友だちをたくさん招いてイエス様との出会いをつくりました。ここにもファリサイ派の人や律法学者がこのタイミングで出てきます。やはり今日のところと全く同じようにイエス様に文句を言いました。なぜ徴税人や罪びとと一緒に飲んだり食べたりするのか、と批判を言ったのです。イエス様は彼らに言いました。「医者が必要とするのは健康な人ではなく病人である。わたしが来たのは正しい人を招くためではなく、罪びとを招いて悔い改めさせるためである。」罪びとと呼ばれた人たちは、イエス様のお招きをうけて、心から悔い改めてイエス様に従っていたのでした。ファリサイ派の人や律法学者は自分たちの高慢さのゆえに、罪びとたちも、またともに食事をしたイエス様も下に見て、そんなことはすべきではない、と冷ややかに批判しています。

ファリサイ派の人、律法学者の心と、イエス様の心の違いはなんと大きいことでしょうか。イエス様は羊飼いのように、羊を見つけるまで探し、探し当てたら自分の喜びとして友だちや近所の人を呼び集めて大きな宴会を開いています。皆さん、失っていた、もう死んでしまっても仕方のない羊を見つけることができましたから、一緒によるこんでください！と言いました。銀

貨を見つけた女性も同じです。友だちや近所の女たちを呼び集めて、壊れてしまった銀貨を見つけたことができましたので一緒に喜んでください！と喜びを分かち合いました。

イエス様は罪びとを招いてくださいます。罪びとを探し出して、そこへ来て、お声をかけてくださいます。イエス様は徴税人レビの仕事場に来てくださって、わたしに従いなさい、と招いてくださいました。神様から離れてしまって、自分の力では神様の方に向き直ることのできない私たちをご存じて、イエス様の方からわたしの生活の現場に来てくださいます。私を訪ねだして、御声をかけてくださいます。罪びとである私たちは、イエス様がみ言葉をもって招いてくださいますから、悔い改めてイエス様に向き直り、み言葉の力によって立ち上がることができ、すべてを捨ててイエス様にお従いできるのです。

それだけではありません。私たちがイエス様を信じることができるようにと、イエス様がすべてのことをしてくださったのにもかかわらず、羊飼いのイエス様が宴をひらいて、多くの人びとと私の帰還を喜んでくださいます。何という光栄なことでしょうか。これまでの罪を悔い改めて、お招きくださったイエス様の喜びの席に、親しくともに座らせていただくのです。礼拝はそのようなときです。説教でイエス様の御声を聴き、聖餐でイエス様は私たちのために流されたご自身の贖いの血と裂かれた体を、私たちにしもべのようにして給仕してくださり、私たちがイエス様によって罪の赦されたこと、そして新しいいのちをいただいていることを確信することができるようにしてください。

さて、パリサイ派の人や、律法学者の人びとは、イエス様に不平を言いました。彼らに対してイエス様は、どうしたでしょうか。羊飼いのお話と銀貨の女性のお話をしました。なぜ罪びとと言われる人と食事をともにしているかをお知らせしました。そして、あなたがたも一緒に喜んでください！と勧められます。お気づきでしょうか。

このふたつのお話の続きには、二人の息子のお話がでてきますが、そこでは帰ってきた弟のために宴会を開いて喜ぶ父が、ふてくされて家に入ろうともしない兄息子のために宴会から出てきて、彼の話じっくり聞いて、わたしのものは全部お前のものだ、と彼への愛を伝え、だから弟が生き返ったことをいっしょに喜ぼう、と誘っています。パリサイ派の人や律法学者に対して、兄息子に対するようにイエス様は愛を伝えているのです。そして彼らこそ悔い改めてイエス様に向きを変え、イエス様と共に罪びとたちの信仰を喜び、兄弟姉妹として受け入れて共に歩むことを願っておられたのです。パリサイ派の人や律法学者は、人には自分の正しさを主張できたのですが、それは罪びととの比較によって見えていることにすぎません。きよい神様の御前には自分は裏付けのない安心をもってしまっています。そしてほんとうは自己中心な罪びとなのにもかかわらず、自分の罪を認めようとしない、頑固で高慢な罪びとなのです。私は罪びとたちのようではなく、自分は正しい人、自分は医者 of いない健康な人、自分は悔い改める必要のない人と思ひこんで、実はイエス様をなにがしか感じてはいらぬものの、自分か

らはイエス様に向き直らず近づかない、つまり、悔い改めないという自分の姿に気づかなかったのです。

イエス様は私たちのために十字架にかかって死んでくださいました。そして三日目によみがえってくださいました。それは、人からさげすまれたり、人の社会から見捨てられたように思う人々のところにイエス様が来てくださって、親しく心を開いて、その流された血によって罪を赦してくださるためです。またよみがえりの新しいいのちを与えてくださるためです。

けれどもそれだけではなく、自分は罪びとのもようではないと思い、罪びとをさげすんでいた民の指導者たちにも、自分の努力や知恵や立場に頼るのではなく、神様の御前に心砕かれて悔い改め、イエス様によって罪の赦しを得るように願っていただきます。

イエス様の御救いについて知っていても、イエス様は優しい方だな、イエス様のことがもっと苦しんでいる人々に宣べ伝えられたらいいな、でも自分はそれほどでもないから、まあ大丈夫だろうと、冷たく少し距離をおいて他人事のように感じている人が今日もしおられるなら、その人に今日イエス様はお語りになっています。あなたも高慢で頑固なひとりの罪びととして悔い改めて、イエス様の方に向き直り、九十九匹にではなく共に一匹の羊に目を注いで探し求め、苦勞をいとわずに見つけ出して、死んでいた羊が生き返ったことを皆で喜ぶ、そんな生きがいに生き始めましょう。私は大丈夫、でも家族や友達や近所の人は罪びとだから距離を置く、というような態度をまさかとすることはないでしょう。弟息子が帰ってきて家中が喜びでわいているときにふてくだされてしまった兄息子のよう、お父さんの喜びをぶちこわす足手まといの冷たい表情ではないでしょう。むしろ、あなたを探し出して御声をかけ、イエス様のゆえに罪を赦して新しいいのちを与えてくださったのですから、あのレビが自宅で宴会を開いたように、イエス様を紹介する機会を工夫してみましよう、あなたの家族、あなたの友達、あなたの近所の人にもイエス様の福音が届きますように、今週あなたはどんなことからお始めになりますか。

「言っておくが、このように、一人の罪人が悔い改めれば、神の天使たちの間に喜びがある。」  
ルカによる福音書 14 章 27 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあつて守ってください。アーメン

### **讚美歌 354 番 献金 献金感謝の祈り**

- 1 牧主(かいぬし) わが主よ、迷う我らを 若草の野辺に 導きたまえ  
我らを守りて 養いたまえ、我らは主のもの、主に贖わる
- 2 良き友となりて 常に導き、迷わば訪ねて 引き返りませ  
我らの祈りを 受入れたまえ、我らは 主のもの、ただ主に 頼る
- 3 赦しの みちかい、救いの恵み、きよむる力は 皆 主にぞある

我らをあがない 生命をたまう 我らは主のもの、主に在りて生く

- 4 御慈愛(みいつくしみ)をば 我らに満たし、今よりみむねを なさしめたまえ  
我らをあわれむ み恵み深し、我らは主のもの、主をのみ 愛す アーメン

### 主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。  
みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。  
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。  
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。  
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン

### 頌栄：讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、あぁみ栄えよ。アーメン

### 祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき  
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、  
豊かにありますように。アーメン

### 後奏